

第6回噴火湾ホタテガイ情報(2014年) 発行日:平成26年7月8日(改訂版7月22日)

発行:函館水産試験場・栽培水産試験場・釧路水産試験場 協力:胆振・渡島北部・渡島地区水産技術普及指導所

各地で採苗器への付着数は6月中旬～下旬にかけて増加していました。最終的な稚貝の付着状況は、一部の地域を除いて、平年より多い付着数となっています。

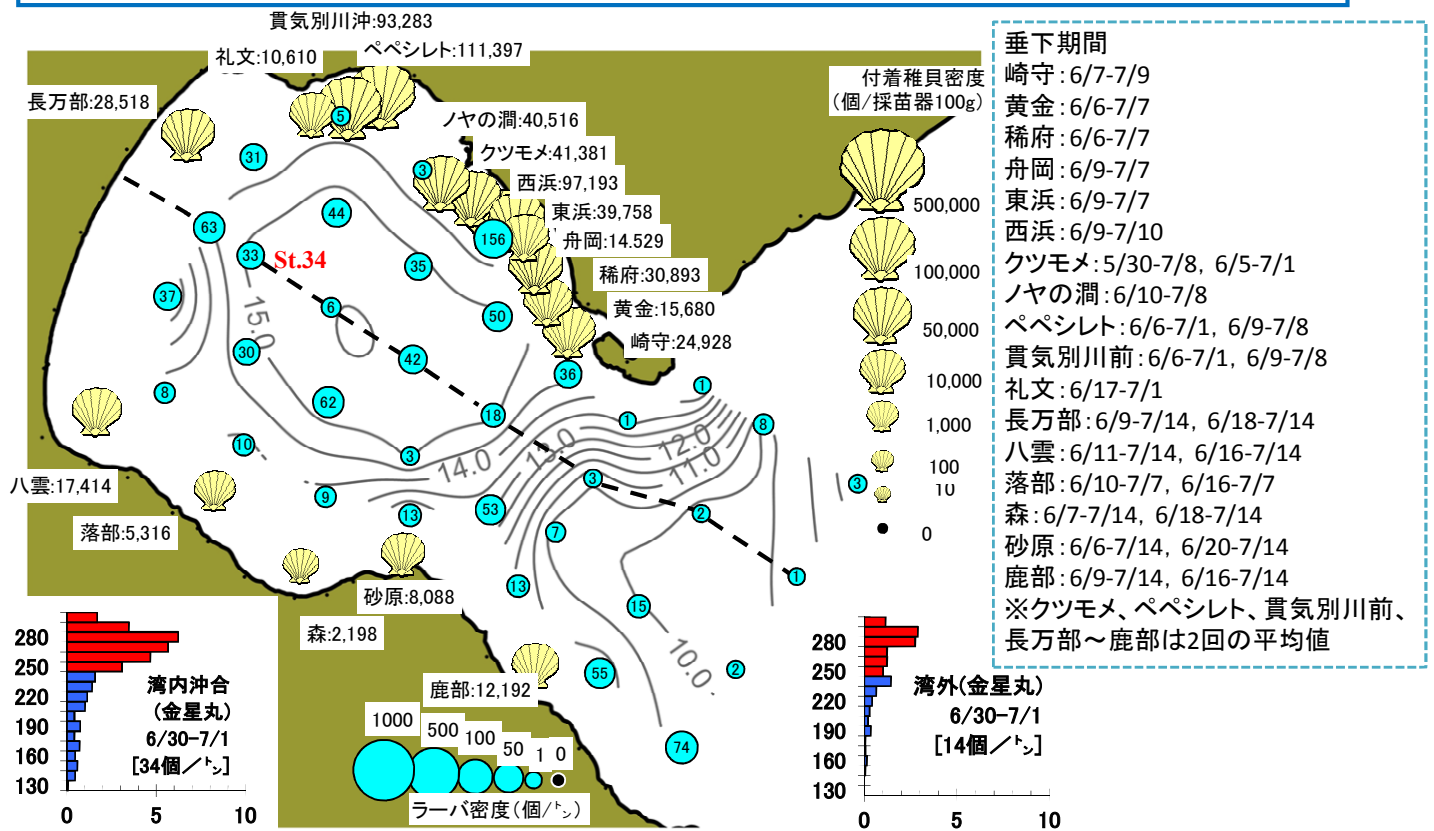


図1. ホタテガイラーバのサイズと分布状況および稚貝の付着数(ラーバ・海洋観測:2014年6月30日-7月1日)、丸および貝の大きさと添付数字はラーバまたは稚貝密度(個/ト)、個/採苗器100g)、灰色曲線と数字は深度10mにおける等水温線と水温(°C)。(沿岸部の調査地点は実際の位置よりも沖合にプロットしています。)

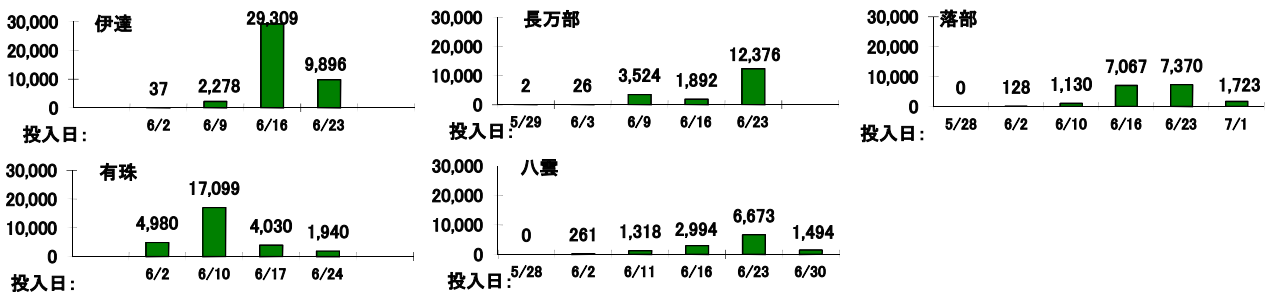


図2. 稚貝の週間付着数(個/袋/週):一袋はおよそ採苗器100g

「概要」

6月30日～7月1日に噴火湾周辺海域で函館水試所属「金星丸」により、ホタテガイラーバ及び海洋観測を行いました(図1)。ラーバ密度は前回調査(6月2～3日)に比べて、湾内沖合、湾外ともに減少しています。ラーバの大きさは、付着間際の大型サイズ(250μm以上)が主体となっています。

各地区の週間付着調査では、胆振側では6月中旬、渡島側では6月下旬を中心に付着数が増加していました(図2)。6月に投入した各地の採苗器への付着数は2,198～111,397(個/採苗器100g)で、落部と森でやや少なめでしたが、全体的には平年より多い付着数となっています(図1)。次回の海洋観測は7月23～7月31日に釧路水試所属「北辰丸」で実施予定です

(連絡先:函館水産試験場 佐藤・吉田・金森・渡野邊 TEL: 0138-83-2893)

この情報は函館水試のホームページからもご覧いただけます。 <http://www.fishexp.hro.or.jp/cont/hakodate/>

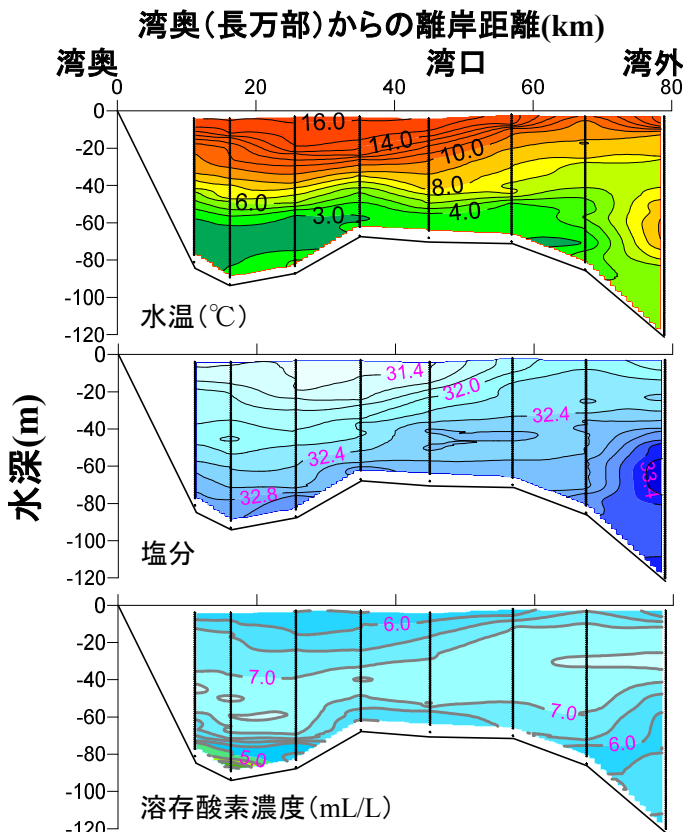


図 3. 噴火湾縦断面(図 1 破線部)の水温、塩分、溶存酸素分布

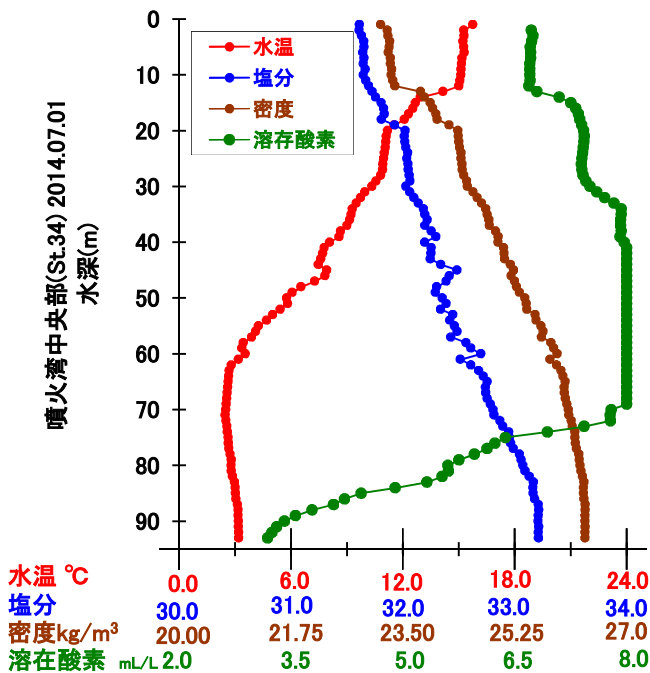


図 4. 最深地点(St.34: 図 1)における水温・塩分・密度・溶存酸素の鉛直分布

【環境情報】

水温: 湾内 30m 以浅での水温は 9~16°C、湾外 30m 以浅は 7~14°C となっており、ともに平年並みからやや低い状態です(図 3、4)。湾内の 60m 以深には水温 3°C 以下の平年よりも冷たい水が分布していますが、これは今後、湾外の高塩分・高塩分な津軽暖流水が流入する事で、湾外へ排出されることが考えられます。

溶存酸素濃度: 湾内最深部の溶存酸素濃度は 70m から急激に減少しており(図 4)、湾内の最深部は貧酸素状態(貧酸素の目安は 2~3mL/L)になっています(図 5)。しかし、70m 以浅の溶存酸素濃度は全域で 5mL/L 以上で、ホタテガイの垂下水深帯には十分に酸素が供給されている状態です(図 3、4)。

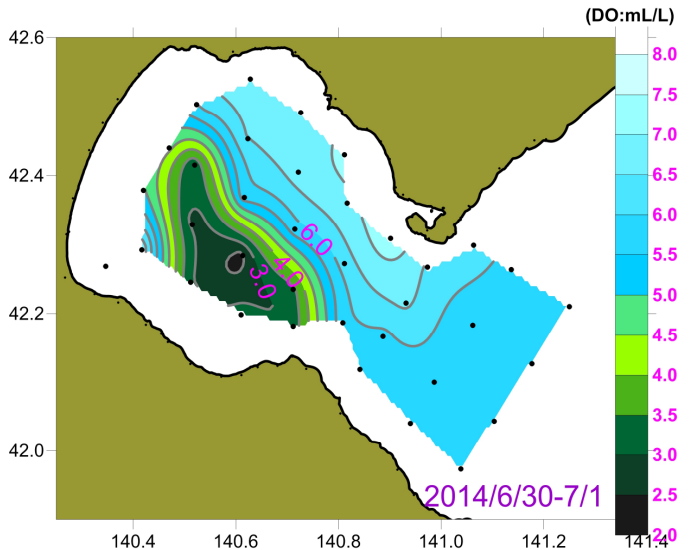


図 5. 海底上 5m の溶存酸素濃度分布